国立大学法人徳島大学
財務レポート
Tokushima University Financial Report

徳島大学は、本学を支えてくださる多くの学生・保護者、同窓生及び地域の皆様方に対し、財務情報の提供により、大学の財政状態及び運営状況を明らかにし、大学の現状についてご理解いただくことが重要な責務の一つと考えております。

この財務レポートは、徳島大学の現在の財務状況をできるだけ分かりやすくお伝えするために、平成26事業年度財務諸表をもとに作成いたしました。

平成16年4月、徳島大学は他の国立大学と同様に法人化し、国から独立した経営体としての運営を行うこととなり、平成26年度で法人化後11年が経過しました。

平成26事業年度は、附属病院収益などの増加、平成26年3月に導入したＥＳＣＯ事業による光熱水料の減少や、環境整備のための修繕費の減少などにより利益を計上することができました。一方で、他の国立大学法人と同様、財政基盤の多くは国からの補助で支えられておりますが、この補助金の大部分を占める運営費交付金は、法人化翌年の平成17年度から毎年減額されております。これは徳島大学の財政基盤が毎年厳しくなることを意味しており、引き続き安定した経営を行うためには、経費の節減を図るとともに自己収入の増加及び競争的資金の獲得に努めて行くことが重要であると考えております。

貸借対照表の概要

貸借対照表は、決算日（平成27年3月31日）における徳島大学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

（単位：億円）

資産の部

	25年度	26年度	増減
土地	448.2	448.1	△ 0.1
建物	226.9	229.2	2.3
建物附属設備	100.7	94.0	△ 6.7
構築物	22.3	21.4	△ 0.9
工具器具及び備品等	102.2	95.3	△ 6.8
図書	29.0	27.6	△ 1.4
投資有価証券（国債等）	33.7	23.7	△ 10.0
現金及び預金	92.7	92.3	△ 0.4
未収附属病院収入	41.3	42.7	1.4
有価証券（譲渡性預金等）	25.0	48.0	23.0
その他	51.7	67.7	16.0
資産の部合計	**1,173.5**	**1,190.0**	**16.5**

負債の部

	25年度	26年度	増減
資産見返負債	126.3	126.1	△ 0.2
センター債務負担金	107.5	95.2	△12.3
長期借入金	98.8	122.4	23.5
未払金	103.4	106.4	3.0
運営費交付金債務	14.3	9.3	△ 5.0
寄附金債務	65.8	65.2	△ 0.6
その他	13.3	13.9	0.5
負債の部合計	529.4	538.3	8.9

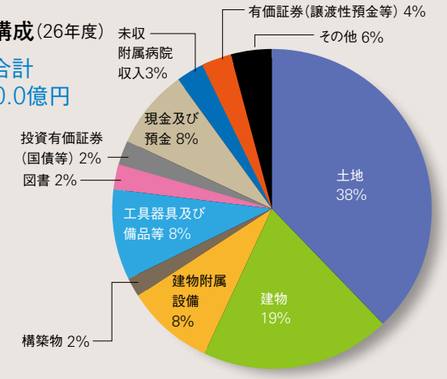
純資産の部

	25年度	26年度	増減
資本金	467.4	467.3	△ 0.1
資本剰余金	97.7	94.6	△ 3.1
利益剰余金	79.0	89.8	10.8
その他有価証券評価差額金	0.0	0.0	0.0
純資産の部合計	644.1	651.7	7.6
負債及び純資産合計	**1,173.5**	**1,190.0**	**16.5**

注）単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計及び増減は一致しません。

資産構成（26年度）

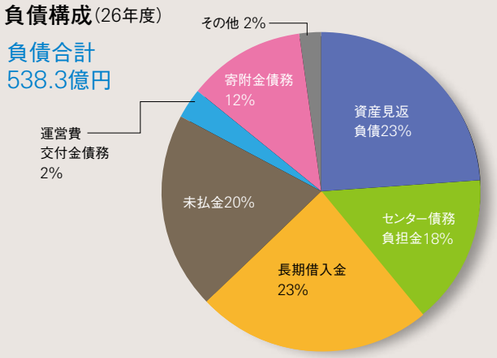
資産合計
1,190.0億円



【資産の概要】
・土地が全体の約４割を占めています。
・建物・建物附属設備・構築物の減は、フロンティア研究センター、総合研究棟等を建築しましたが、減価償却費がこれを上回ったことによるものです。
・工具器具及び備品等の減は、病院医療設備のPET−CT診断システム等を整備しましたが、減価償却費がこれを上回ったことによるものです。
・投資有価証券（国債等）の減は、有価証券（譲渡性預金等）への勘定科目の変更によるものです。
・有価証券（譲渡性預金等）の増は、投資有価証券（国債等）からの勘定科目の変更、譲渡性預金及び定期預金の増加によるものです。
・その他の増は、病院外来診療棟新営工事の前払金の増加等によるものです。

負債構成（26年度）

負債合計
538.3億円



【負債の概要】
・センター債務負担金及び長期借入金が全体の約4割を占めています。
・長期借入金の増は、病院外来診療棟及び医療設備整備のための借入金（29.9億円）によるものです。
・運営費交付金債務の減は、翌年度への繰越額が前年度より減少したことによるものです。
※センター債務負担金
法人化以前に病院の建物や設備充実のために借り入れたもの
※長期借入金
法人化後に病院の建物や設備充実のために国立大学財務・経営センターから借り入れたもの

損益計算書の概要

損益計算書は、事業年度内に徳島大学が実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載することによりその運営状況を明らかにしています。

（単位：億円）

経常費用

	25年度	26年度	増減
業務費	392.5	406.6	14.1
教育経費	19.2	19.2	0.0
研究経費	25.9	25.7	△ 0.2
診療経費	135.0	138.3	3.3
教育研究支援経費	2.5	2.6	0.1
受託研究等経費	15.0	16.6	1.7
人件費	194.9	204.0	9.1
一般管理費	13.6	11.9	△ 1.6
財務費用	3.8	3.5	△ 0.2
雑損	0.0	0.0	△ 0.0
経常費用合計	409.8	422.0	12.2

経常収益

	25年度	26年度	増減
運営費交付金収益	112.8	120.7	7.9
学生納付金収益	41.4	43.9	2.5
附属病院収益	208.8	211.5	2.7
受託研究等収益	15.1	16.6	1.5
施設費収益	1.5	0.3	△ 1.2
補助金収益	3.8	5.7	1.9
寄附金収益	13.1	12.7	△ 0.3
資産見返負債戻入	13.7	17.7	4.0
財務収益	0.1	0.1	△ 0.0
雑益	5.4	6.9	1.5
経常収益合計	415.7	436.2	20.5

臨時損失

	25年度	26年度	増減
固定資産除却損	0.4	0.3	△ 0.1
その他臨時損失	0.9	3.1	2.2
臨時損失合計	1.3	3.4	2.1

臨時利益

	25年度	26年度	増減
徴収不能引当金戻入	0.0	0.0	△ 0.0
その他臨時利益	0.3	0.0	△ 0.3
臨時利益合計	0.4	0.0	△ 0.4

当期総利益

	25年度	26年度	増減
当期総利益	4.9	10.8	6.0

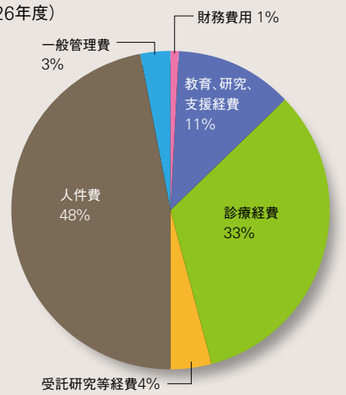
前中期目標期間繰越積立金取崩額・目的積立金取崩額

	25年度	26年度	増減
前中期目標期間繰越積立金取崩額	0.0	0.1	0.1
目的積立金取崩額	0.0	0.0	0.0

注）単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計及び増減は一致しません。

経常費用構成（26年度）

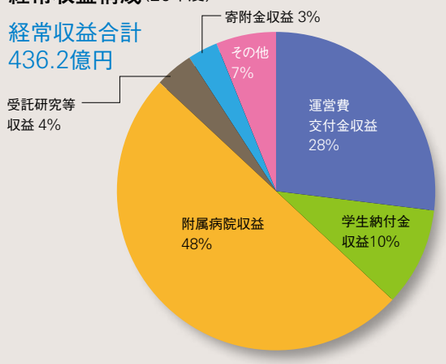
経常費用合計
422.0億円



【経常費用の概要】
・経常費用は、人件費が全体の約5割を占めています。
・診療経費は診療報酬獲得のために要する経費で、約6割近くが医薬品や診療材料にかかるものです。診療経費の増は、附属病院収益の増加による医薬品等の増加及び減価償却費の増加によるものです。
・人件費の増は、東日本大震災に係る臨時特例法の終了に伴う給与の増加、人事院勧告に伴う賞与の増加及び非常勤教職員の人員増等によるものです。
・一般管理費の減は、環境整備事業充実に伴う修繕費の減少によるものです。

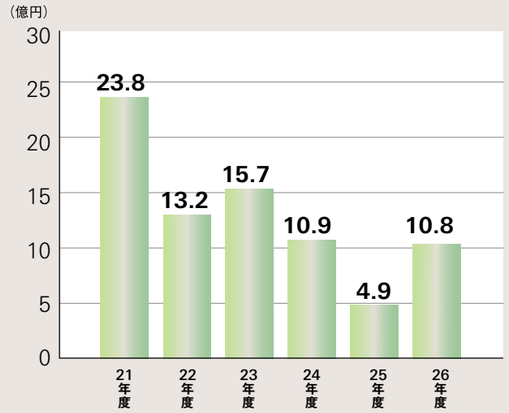
経常収益構成（26年度）

経常収益合計
436.2億円

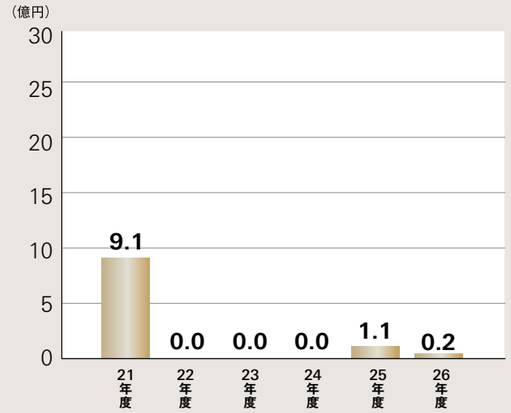


【経常収益の概要】
・経常収益は、運営費交付金収益と附属病院収益で全体の約8割を占めています。
・運営費交付金収益の増加は、東日本大震災に係る臨時特例法の終了等に伴う交付額の増加によるものです。一方で、文部科学省からの運営費交付金は大学改革促進係数（平成26年度△1.3%）の影響により毎年減少しております。
・附属病院収益は、平均在院日数の短縮及び手術件数の増加等により2.7億円の増加となっています。

当期総利益



目的積立金（承認額）



【目的積立金の概略】　国立大学法人は、原則として企業会計に基づき会計処理を行いますが、公共的な性格を有していること、利益の獲得を目的しないこと、独立採算制を前提としないこと、補助金（運営費交付金）を受けて事業を実施する法人であることなどから、損益均衡の原理が会計制度の基本となっています。一方で、経費の節減、自己収入の増加など経営努力を行った際には利益が生じることになり、当期総利益のうち文部科学大臣の承認を受けた額については目的積立金として積み立てられ、翌事業年度への繰り越し及び使用が可能となります。平成26年度は、平成25年度における剰余金として0.2億円の繰り越し承認を受けました。

この目的積立金は、徳島大学の中期計画で定めた使途に充てることができ、「決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる」と定めています。

主な施設の整備

（病院）外来診療棟新営（平成27年9月開院）

（南常三島）フロンティア研究センター新営（平成26年12月完成）

【主な施設の整備状況】

蔵本地区
- 総合研究棟（医学系）新営工事　［平成26年7月完成］
- 外来診療棟新営工事　［平成27年9月開院］

南常三島地区
- フロンティア研究センター新営工事　［平成26年12月完成］
- 地域創生・国際センター新営工事　［平成27年6月完成］

平成27年度工事
- （石井）創薬・医療機器開発施設新営工事　〈平成27年12月完成予定〉
- （南常三島）第一食堂改修工事　〈平成27年12月完成予定〉
- （蔵本）基幹・環境整備（排水設備等改修）工事　〈平成28年1月完成予定〉
- （病院）旧外来棟取り壊しに伴う支障移設工事　〈平成28年1月完成予定〉
- （瀬戸）実験実習棟新営工事　〈平成28年2月完成予定〉
- （病院）外来診療棟新営工事（連絡棟改修）　〈平成28年3月完成予定〉
- （南常三島）埋蔵文化財調査室新営工事　〈平成28年3月完成予定〉

【まとめ】

本事業年度は、10・8億円の利益を計上していますが、病院収入等の増加、業務の見直しによる経費の節減などの経営努力による利益のほかに、国立大学法人における固有の会計処理による非資金的項目も含まれております。これらの経営努力によって生じた利益については、目的積立金として文部科学大臣の承認を受けた後、中期計画の確実な実施のため効率的な活用を図っていくこととしております。

一方で、徳島大学の財政基盤を支える運営費交付金については、毎年減額されている状況であり、本学を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

このような状況のもとで、「知を創り、地域に生き、世界にはばたく徳島大学」として、教育・研究・社会貢献及び診療の各分野にわたって、その充実と不断の見直し・改善や機能強化を図り、国立大学としての使命を果たすためには安定した財政基盤が必須であるため、引き続き、経費の削減、自己収入の増加及び競争的資金を獲得するなど財政運営の強化に努めて参りますので、今後ともご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

tokudai NEWS 徳大ニュース

5月30日 徳島大学サテライトオフィス「神山学舎」を開設

本学5ヶ所目のサテライトオフィスとして，神山町の神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックスに，本学の学生と地域の人達が共に学べる、フューチャーセンター機能を持った未来の学校「神山学舎」を設置しました。

5月30日に行われた設置式典には、地域の人達や本学学生、教員等、約60名が出席し、香川学長、神山町の後藤町長によるご挨拶、本学役員や来賓の方々による看板除幕式が行われ、大南客員教授（NPO法人グリーンバレー理事長）から学舎の設置経緯について説明があった後、大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の佐原准教授から，「IT Design x Innovation　デザイン領域からの地域連携＋産学接続」と題して記念講演が行われました。

式典終了後は、大南客員教授を講師として、25名の学生、大学院生らが参加する全学共通教育科目「スチューデント・アンバサダー」やワークショップ等の合宿授業が行われました。

看板除幕式

大南客員教授のディスカッション

9月24日 徳島大学病院新外来診療棟開院

徳島大学では医療の高度化に対応するため、平成7年より再開発計画を進めてきました。これまで中央診療棟及び東西病棟が完成し、このたび最後の建物として大学病院の新しい顔となる新外来診療棟が完成しました。国道192号線沿いに「徳島大学病院」のサインとともに新しく白い姿を見せています。

○新外来診療棟の概要

新外来診療棟は鉄骨造5階建て延べ床面積19，600㎡で、1階～3階は医科外来部門、4階は歯科外来部門と手術室2室、5階は日亜化学工業（株）ご寄付によるホールと管理部門となっています。平成15年に医学部附属病院と歯学部附属病院が統合されましたが、これまで医科・歯科診療部門は別々の建物にありました。新外来診療棟の完成により、大学病院の医科・歯科診療部門がすべて一体となりました。手術室は放射線透視装置を併設し通常手術とカテーテル治療を同時に行えるハイブリッド手術室と手術支援ロボット（ダヴィンチ）用手術室を増設し、現在の手術部門とクリーン廊下で直結し一体運用を行います。

○新外来診療棟の目指す姿

徳島大学病院は徳島県唯一の特定機能病院として、「人間尊重の全人的医療の実践」、「高度先端医療の開発と推進」、「高い倫理観を備えた医療人の育成」、「地域医療及び社会への貢献」の目標を掲げています。

新外来診療棟の内装は、白を基調とした明るい色調でLED照明や大きな窓と合わせて明るい患者環境を、患者とスタッフの動線を分けることで落ち着いた患者環境を実現します。また、ブロック受付を導入し待ち時間の短縮、混雑の解消、利便性の向上を目指しています。さらに、患者さんをはじめ病院を訪れるすべての皆さんのアメニティに配慮し、1階には、旧外来診療棟から移転したタリーズコーヒー、天吉うどん、ローソンが入り、スペースも従前より広くなりました。また、皆さんがくつろげる広いアメニティテラスを用意しました。

一方、治験外来診察室や学生教育用の広い診察室をおいて教育・研究の推進を目指しています。さらに1階玄関近くに患者支援センターをおいて患者の入退院手続き、地域連携、各種相談を集約し、1ストップサービスを行います。このように新外来診療棟は病院の目標を実現する原動力として期待されています。

9月11日 開院記念式典でのテープカットの様子

国道側正面外観

Tokudai NEWS 徳大ニュース

9月24日

地域創生・国際交流会館完成記念式典及びフューチャーセンター・オープニングセレモニーを挙行

地域創生・国際交流会館の完成を祝い、常三島キャンパスにおいて完成記念式典及びフューチャーセンター・オープニングセレモニーを挙行しました。

関係者によるテープカットの後、式典会場である5階フューチャーセンターにおいて、人形浄瑠璃とくしま座による阿波人形浄瑠璃「寿二人三番叟」が上演されました。

式典では、香川学長から「この地域創生・国際交流会館が、多くの方々にこれらの様々な機能をご活用いただき、徳島県における地域創生、国際交流に大いに貢献する拠点として、本学の一層の飛躍を担う施設となることの期待と、この会館がその目的を達成し、また、本学が地域に根ざした国立大学としてますます発展できるよう支援をお願いしたい」旨の式辞がありました。

テープカットの様子

引き続き、来賓を代表し、内閣府特命担当大臣の山口俊一氏から「地方創生、活性化には、まさに地方大学は知の拠点として期待している。産学官のみならず金融機関も含めた組織が相集い、連携して、まさに地方創生に資する働きをお願いしたい」と、また、徳島県知事の飯泉嘉門氏からは「地方創生の新たな1ページとなる地域創生・国際交流会館のオープンにあたり、地方創生の旗手〝徳島〟、さらには日本創生の礎を徳島から築いていくきっかけとなるよう期待する」とそれぞれ祝辞を述べられ、続いて、高石教育担当理事・副学長から会館の概要説明がありました。

完成記念式典終了後には、会館を利用したイベントの第一弾としてフューチャーセンター『A.BA』のオープニングセレモニーが開催され、来賓の徳島市長の原 秀樹氏と、多摩大学大学院教授で一般社団法人 Japan Innovation Network代表理事の紺野 登氏が祝辞を述べられ、地域創生センター長の吉田敦也教授から、徳島大学フューチャーセンター『A.BA』の概要について説明がありました。

人形浄瑠璃上演

祝辞を述べられる山口大臣

学長式辞

このセレモニーは、本学と徳島市との連携事業も兼ねて開催しており、米国オレゴン州ポートランドからお招きしたシティリペア創始者 マーク・レイクマン氏から、「Getting Beyond 〝impossible〟–Sustainable Place Making in The Modern City–」と題して基調講演が行われました。シティリペアとは、ポートランドで実践されている市民による自主的なまちづくり活動で、代表的な手法として地域住民が交差点にペイントし、人が集まる場所に生まれ変わらせる「インターセクション・リペア」などがあり、世界的にも注目されている事業です。

基調講演では、同氏のポートランドにおける活動など、示唆に富んだ内容が紹介され、約100名の学内外からの参加者は熱心に聞き入っていました。

参加者による施設見学の後、引き続き、徳島市との連携事業の一環として〝助任の丘〟で開催した「ファーマーズ・マーケット」は、あいにくの天候のため規模を縮小しての開催となりましたが、徳島県産の農産物や加工品を生産者が直接販売している「とくしまマルシェ」のご協力による地産地消をテーマとした美味しい料理がふるまわれ、参加者が食事と会話を楽しみながら、「憩い・集い・繋がる」場所となりました。

式典参加者の集合写真

吉田敦也センター長 開会の辞

マーク・レイクマン氏による基調講演

地域創生・国際交流会館の概要

地域創生・国際交流会館は、本学の地域創生並びにグローバル人材育成等の諸機能を集約し、地域の住民、地方自治体、企業、日本人学生、外国人留学生、教職員等が集い、本学が掲げる地域活性化やグローバル人材育成に向けた中核的拠点として、相乗的な成果を一層に高めるために新設された施設です。

■1階

多言語交流コモンラウンジ

本学の日本人学生・教職員や、地域の住民及び高校生等が外国人留学生と多言語（英語、中国語、ドイツ語、フランス語、韓国語、日本語）で対話し、語学力の向上や異文化理解を深化させる場としています。

■2階

英語学習・コミュニケーションプラザ

正課授業に融合した、英語による実践的コミュニケーション能力向上を目的とするスペースです。利用者が英語で交流する「交流スペース」、書籍やオンライン英語学習教材などを使った「自学自習スペース」、英語学習の相談に対応する「英語学習相談スペース」があります。また、英語圏からの留学帰国学生に対する継続的英語学習の支援等、英語教育担当教員を中心に各種英語学習の支援を提供します。

■3階

地域創生センター・地域創生課

全学の地域連携活動を統括し、地域の再生・活性化に関する課題解決、人材育成に取り組むとともに、新たに「地域連携のワンストップ窓口」を設置し、地域からの相談・要望等を一つの窓口で受け付け、学内外の人的・物的資源との橋渡しを行います。

共用室

3つの共用室は、日本人学生・外国人留学生と地域住民との交流の場として使われます。また、外国人留学生の日本語・日本文化教育、学生のグローバル化教育の場として多様に活用されます。

■4階

国際センター・国際課

国際センターは、国際交流・留学生支援の拠点であり、国際課はその総合窓口です。大学と地域社会のグローバル化推進、海外協定校等との国際交流、外国人留学生への日本語教育と学修・生活上の相談・指導、日本人学生に対する異文化理解教育と海外留学に関する相談等の支援業務を行っています。このフロアではこれら相談業務のためのスペースも設置しています。

■5階

フューチャーセンター『A.BA』

国立大学初の設置となるフューチャーセンター［愛称『A.BA』〈阿波の国の〝あばば〟（眩しい）〝場〟〉］は、従来の枠組みでは解決が困難な社会的事象や課題に対して、組織、所属、立場の異なる多様な人々が集まり、未来志向の対話、デザイン思考の手法から、新たな発想や解決手段を発見・共有し、相互協力の下で共創、社会実践するための「場」、「イノベーションプラットフォーム」です。

スペーステクノロジーを取り入れたオープンスペースに多様な什器を配置し、柔軟なレイアウト、構成、憩い、集い、遊び、食、DIY、伝統、文化の要素を取り入れ、自由な発想を促す空間となっています。

また、このフロアは災害時における緊急避難施設としても活用することとしています。

Tokudai NEWS 徳大ニュース

5月23日 2015年度五月祭を開催

常三島キャンパスにて、2015年度五月祭を開催しました。

五月祭は、この春に徳島大学に入学した新入生を歓迎し、交流を図ることを目的に開催されています。2015年度五月祭のテーマは「WOW!-FANTASTIC MAY BE!」です。新入生の皆さんがすてきな大学生活を送り、輝いた毎日を過ごされることを願うテーマとしました。

5月23日は、朝からステージ企画、教室企画等が始まり、多くの模擬店も出店しました。ステージ企画では、新一年生を対象としたファッションコンテストや華麗なダンスパフォーマンスなどに歓声があがりました。毎年恒例の貫歩企画は、悪天候が懸念されたため中止となりました。

6月4日 スポーツサポートサークル「徳島大学SportVIP（Volunteer Involvement Program）」の設立総会

徳島大学常三島キャンパスにおいて、スポーツサポートサークル「徳島大学SportVIP（Volunteer Involvement Program）」の設立総会を開催しました。

本サークルは、スポーツ関係活動に特化した徳島大学の学生ボランティアサークルで、地域プロスポーツチーム（徳島ヴォルティス、徳島インディゴソックスの運営サポート）および、総合型地域スポーツクラブ（子どもや高齢者の運動・スポーツ教室サポート）などをフィールドに活動を展開し、サークルメンバー（学生）が、各種スポーツボランティア活動を通して大学内・外の人的交流を広げるとともに、スポーツ環境（地域づくり環境）の構築に必要な実践的能力（経験）を得ることを目的とした学生団体です。

6月12日 「フロンティア研究センター」完成記念式典を挙行

フロンティア研究センターの完成を祝し、常三島キャンパスにおいて完成記念式典を行いました。当センターは、常三島キャンパスの工学部構内にあり、先端ロボットを用いたコミュニケーション支援技術等を開発する「医工連携研究部門」、枯渇資源対策及び未利用資源からの有用資源回収等に関する研究を行う「資源循環研究部門」、新しい光機能材料や光デバイスの開発を行う「光テクノロジー研究部門」の3部門の各種研究室や実験室のほか、大学と共同研究する外部の研究者のためのスペースも設けています。今後、次代に結びつく更なる成果を上げ、地域と社会に貢献することが期待されます。

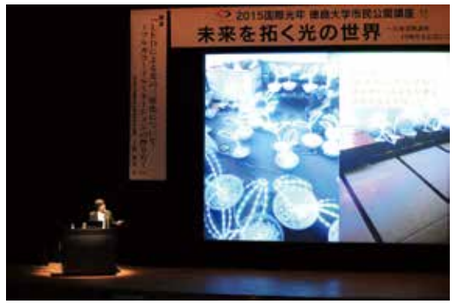
7月9日 省エネポスター表彰式を挙行

徳島大学では、省エネ推進を目的に省エネポスター募集を行った結果を受け、7月9日に表彰式を挙行しました。表彰式には香川学長、各理事、最優秀賞の長田さん、優秀賞の庄野さん、堀川さんが出席しました。

香川学長から「省エネに積極的な皆さまのおかげで、大学の省エネ活動に弾みが付きました。」との挨拶とともに、表彰状・記念品の授与が行われました。

この省エネポスターにより、エネルギー問題を身近に感じて、より多くの学生・教職員に省エネ活動が広がっていくことが期待されます。

7月11日 徳島大学市民公開講座「未来を拓く光の世界」を開催



本学の研究成果を広く社会に紹介し、地域の発展に寄与することを目的として徳島大学市民公開講座「未来を拓く光の世界」を開催しました。本市民公開講座では、本年2015年が国際連合が宣言した国際光年であることと、本学工学部に設置している光ナノテクノロジー研究部門の日亜寄附講座が10周年を迎えた年でもあることから、これを記念してLEDと光をテーマにした講演や工作実習を行いました。当日は好天に恵まれ、会場には約350名の市民に来場いただきました。

8月2日 医学部サッカー部が、第95回天皇杯全日本選手権大会出場決定

第20回徳島県サッカー選手権大会決勝戦で、徳島大学医学部サッカー部は、イエローモンキーズを2対0で下し、第95回天皇杯全日本選手権への出場権を獲得しました。

医学部サッカー部は、昨年行われた全日本医科学生大会王座決定戦で初優勝し、医学部日本一となりました。その頃より部員一同「医学部の枠を超えよう！」を合い言葉に練習に励み、今回創部以来、初めて天皇杯徳島県予選に挑戦しました。

決勝戦は、技術に勝る相手からなかなか意図したようにボールが奪えない展開が続きましたが、猛暑を味方に付け、徐々に若さを生かした運動量で圧倒しはじめ、前半33分に中川（3年）、37分に高松（5年）が得点しリードしました。後半は相手の猛攻を、GK市川（6年）を中心にしのぎきり、2対0で試合終了となりました。

8月5日～10日 オープンキャンパス開催

本学各学部においてオープンキャンパスを開催しました。オープンキャンパスは、本学へ入学を希望する方並びにその保護者の皆さんを対象に、大学の入試制度や学部概要、学生生活についてご説明すると同時に、キャンパスと教育・研究施設を公開し、模擬授業などで大学を直に体験していただくことを目的に、毎年8月に開催されています。

各学部では、教員が模擬授業・実習を行うことに加え、在学生が学内施設を案内したり、体験談を紹介するなど、参加された方々には大学を身近に感じていただけたようでした。

8月8日・9日 第19回科学体験フェスティバルin徳島を開催

徳島大学工学部において「第19回科学体験フェスティバルin徳島」を開催しました。

本イベントは、子どもたちが実際に科学実験等に参加することを通じて、科学の楽しさや不思議さを知ってもらうことを目的とし、地域においても夏休み期間中の恒例イベントとなっています。会場には、2日間で約8,500人の方にご来場いただきました。